

3331 GALLERY #045 3331 ART FAIR recommended artists
盛圭太個展「∞」開催のご案内。初日には公開制作も。



Bug report (Flux), 2020 © ADAGP Keita Mori / Courtesy the artist and Galerie Catherine Putman, Paris.

3331 ART FAIR レコメンドアーティストの特別企画として、パリを拠点に国際的な活動を展開する盛圭太の個展「∞」を開催します。

紙や壁面に糸をグルーガンで張りながら即興で描かれる盛圭太のドローイングには、2種類の線が存在します。ひとつは、真っすぐに張られた直線、もう一方は、重力に委ねた弛んだ曲線。そこには制作過程の中で糸が絡まったり切れたりして起こった小さなエラーを含みながら、緻密で秩序だった建築物や宇宙空間のようなイメージが立ち上がるとともに、効率的にシステム化された現代社会の構造が内包するフラジリティを浮かび上がらせていきます。ある時は、身体の細胞を彷彿させるような有機性を持ち、またある時はリズムを刻む音楽的な譜面のような様子でもあり、さまざまな次元へと線を拡張させながら、あらゆるシステムを脱構築し、その先にあるものへと想像を膨らませてくれます。それは、作家自身も言及するように、未来の痕跡を掘り起こす考古学者のようであるともいえるかもしれません。本展では、代表作のドローイングシリーズ《Bug report》のほか、その創作の原点となる映像作品も展示する予定です。また展覧会の初日には、作家による公開制作やトークイベントを実施いたします。ぜひご高覧ください。

<開催概要>

- 展覧会名：3331 GALLERY #045 3331 ART FAIR recommended artists 盛圭太個展「∞」
- 会 期：2022年12月22日(木)～2023年1月22日(日) *12月29日(木)～1月3日(火)は年末年始休館
- 時 間：11:00-19:00 *1月4日(水)13:00開場 / 最終日1月22日(日)は18:00まで
- 料 金：無料
- 会 場：3331 Gallery(101-0021 東京都千代田区外神田6丁目11-14 3331 Arts Chiyoda 1階 104)
- 主 催：3331 Arts Chiyoda □特別協力：rin art association
- URL : <https://www.3331.jp/schedule/005768.html>

<関連イベント> ※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、イベントの公開方法が変更となる場合もございます。

1. 公開制作 アーティストの盛圭太が、展示室内の壁面に糸によるドローイングを行います。
 - 日時：2022年12月22日(木) 17:00 - 17:30 ■会場：1F 3331 Gallery 展示室内
2. 盛圭太×慶野結香 トークセッション アーティストの盛圭太と、青森公立大学国際芸術センター青森の学芸員でキュレーターの慶野結香氏をお招きしたトークセッションを行います。
 - 日付：2022年12月22日(木) 18:00 - 19:00 ■会場：1F コミュニティスペース
 - 料金：無料 / 要予約
 - 予約方法：Peatixにて(詳細はP.3) ■申込期間：受付中～12月21日(水)18:00

【このプレスリリースに関するお問い合わせ先】 3331 Arts Chiyoda | アーツ千代田 3331

〒101-0021 東京都千代田区外神田6-11-14 TEL:03-6803-2441(代表) FAX:03-6803-2442
E-MAIL:pr@3331.jp (展覧会担当:吉田/広報担当:彦根・佐藤) URL:<https://www.3331.jp>

■ アーティスト ステイトメント | 本展によせて

ドローイングという表現領域を拡張すべく、紙や壁の上に糸をグルーガンで張る独自の手法でシリーズ:Bug reportを制作してきた。イメージを成す2種類の線:糸の張った『直線』と緩んだ『曲線』は、比喩的にシステムの構成要素を司る。一連のシリーズを通じて、線を付け加える度に集積する亀裂(バグ)をレポートすることで暫定的な現実の認識を試みてきた。

この場で、下書きなしに現地制作されるのは、構築と瓦解の様相をもつ"途上の光景"だ。この風景はあやとりを記録した作品に起源を持つ。壊れては造られ、宙吊りのフォームが連なるループ映像は、完成にいたることを回避するドローイングという行為そのものだ。

『線』の始まりを糸とする仮説を、3331 Arts Chiyodaで展開する。

— 盛圭太(アーティスト)

■ 盛圭太 (Keita Mori) | プロフィール

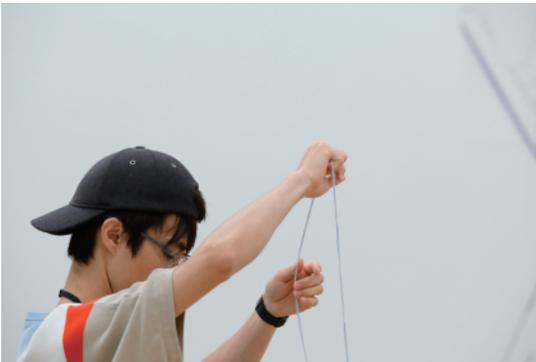


photo: Rokko Keizo Kioku

1981年 北海道生まれ、パリ在住
2004年 多摩美術大学彫刻科卒業

2021 「La Ronde」ルーアン美術館 / ルーアン、フランス

2020 「ドローイングの可能性」東京都現代美術館 / 東京

「Bug report」rin art association / 高崎

2019 「社会を解剖する」高松市美術館 / 香川

2018 「DOMANI・明日展」国立新美術館 / 東京

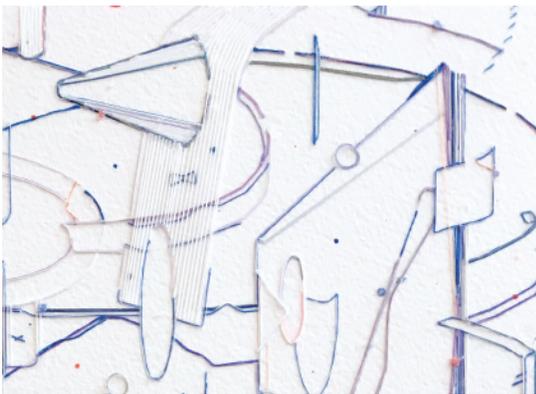
2017 「Template」カトリーヌ・ブットマン ギャラリー / パリ、フランス

2015 「Walk the line」ヴォルフスブルグ現代美術館 /

ヴォルフスブルグ、ドイツ

1981年北海道生まれ。多摩美術大学卒業後渡仏し、パリ在住。文化庁新進芸術家海外研修員としてパリ国立美術学校に在籍。その後パリ第VIII大学大学院美術研究科修了。線の始まりを糸とする仮説からドローイングシリーズを制作。2017年フランス初のコンテポラリードローイングに特化したアートセンター、ドローイング・ラボにて、施設のこけら落としとなる個展「Strings」を行う。同年、Matsutani Prizeの受賞。近年の主な展覧会に、ヴォルフスブルク現代美術館、ヴォルフスブルク；国立新美術館、東京；東京都現代美術館、東京；など国内外で発表。パリのカトリーヌ・ブットマンギャラリー、高崎のrin art associationに所属。作品はマルセイユ現代美術センター、アキテーヌ現代美術センターをはじめ、プライベート、パブリックコレクションに所蔵。

<https://keitamori.com>



[部分]Bug report,2020,木綿糸、絹糸、銅線、カラダッシュ、紙、31x41cm(全体),Courtesy the artist and rin art association, Takasaki.

<個展名について(主催者より)>

本展のタイトル「∞」に読み方はなく、記号の形そのものが個展名となります。盛圭太のドローイングに存在する2種類の線「直線」と「曲線」を象徴する記号として、既存の技術記号の中から作家が選びました。この記号の本来の意味はAC(交流電流)となります。
※同記号は、Unicodeで「U+23E6」で表示されます。使用フォントによっては表示されない場合もございますが、フォント名「Segoe UI Symbol」「STIXGeneral」での表示は確認済みです。

【このプレスリリースに関するお問い合わせ先】 3331 Arts Chiyoda | アーツ千代田 3331

〒101-0021 東京都千代田区外神田6-11-14 TEL:03-6803-2441(代表) FAX:03-6803-2442

E-MAIL:pr@3331.jp (展覧会担当:吉田/広報担当:彦根・佐藤) URL:<https://www.3331.jp>

■ 推薦コメント



Strings, 2017, シングルチャンネル・ビデオ 12分,
ループ 制作: DrawingLab Paris, パリ

糸が先か、線が先か——ともかく人間は、自然のなかに糸なるものを見出した。しかしこれは、そのままでは使いにくいものばかりだった。いつ誰が気づいたか、細かな繊維のかたまりから、糸をとり出すことができるようになった。様々な場所で、糸を紡ぎ、織って利用するための道具が発明された。思えば近代の産業革命も、紡績技術の機械化からはじまった。

世界各地にある、あやとりの原風景を想像する——少し長い糸の切れ端が拾われる。はたまた子どものために、大人が糸を切断する。結ばれた糸は、ひとりかふたりの手のなかで次々とかたちが生成し、ある形態を留めることなく消えていく。そこからはリズムが生まれ、身の回りのものや、かたりともつながっていった。本当に同じかたちなどない。同じようなかたちでしかない。だから何度も繰り返す。

盛圭太は、糸を用いた自身のドローイングをあやとりに喩える。即興で生み出される線は、システムを連想させるイメージをその場に結びながらも常にうごめいている。やがてこれらは、現代文明を伝承するものとなるだろう。

—慶野結香(青森公立大学 国際芸術センター青森[ACAC]学芸員/
キュレーター)

慶野結香 Yuka Keino

1989年生まれ、神奈川県出身。2014-16年秋田公立美術大学ビジュアルアーツ専攻・社会貢献センター(現・NPO法人アーツセンターあきた)助手として、大学主催展覧会および大学ギャラリーBIYONG POINTの企画・運営に携わる。地域の空き家を活用しアーティスト・イン・レジデンスを行った企画に、岩井優「習慣のとりこー踊り、食べ、排便する。／見つめ、再生、指しゃぶり」(2015-16年)など。2017-19年サモア国立博物館(Museum of Samoa)派遣を経て、2019年4月より現職。国際芸術センター青森では、地域のリサーチと滞在制作による展覧会の企画・制作や、レジデンスプログラムの再編(共同企画)など、施設の可能性をさらに引き出す取り組みを行う。ACACでの主な企画に、展覧会「いのちの裂け目一布が描き出す近代、青森から」(2020年)、SIDE CORE/EVERYDAY HOLIDAY SQUAD 個展「under pressure」(2021年4月24日~6月27日)など。

■ 関連イベント ※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、イベントの公開方法が変更となる場合もございます。

1. 公開制作

アーティストの盛圭太が、展示室内の壁面に糸によるドローイングを行います。会期中、1回限りの公開制作となりますので、ぜひご高覧ください。

日時 : 2022年12月22日(木) 17:00 - 17:30
会場 : 1F 3331 Gallery 展示室内
料金 : 無料

2. 盛圭太×慶野結香 トークセッション

アーティストの盛圭太と、青森公立大学国際芸術センター青森の学芸員でキュレーターの慶野結香氏をお招きしたトークセッションを行います。

日時 : 2022年12月22日(木) 18:00 - 19:00
会場 : 3331 Arts Chiyoda 1F コミュニティスペース
料金 : 無料 / 要予約 定員 : 15名
予約方法: 下記URL[Peatix予約フォーム]よりお申し込みください。
<https://peatix.com/event/3421303>
予約期間: 受付中~12月21日(水)18:00



【このプレスリリースに関するお問い合わせ先】 3331 Arts Chiyoda | アーツ千代田 3331

〒101-0021 東京都千代田区外神田6-11-14 TEL:03-6803-2441(代表) FAX:03-6803-2442
E-MAIL:pr@3331.jp (展覧会担当:吉田/広報担当:彦根・佐藤) URL:<https://www.3331.jp>